

# ジヤスモート液剤

プロヒドロジャスモン…………… 5.0%  
 界面活性剤、有機溶媒、水等…………… 95.0%

農林水産省登録 第21051号

毒性 普通物 有効年限 5年 危険物 第四類第二石油類 包装 500ml × 20本

## ●特長

1. エチレンによる成熟促進とは別の経路でアントシアニン(リンゴの紅色色素)の生合成を活性化し、着色を促進します。
2. 散布樹の果実品質は自然収穫果実と比較しても糖度、酸度、味、果肉硬度、日持ち性はほとんど変わりません。

## ●適用作物および使用方法

作物名	使用目的	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	プロヒドロジャスモンを 含む農業の総使用回数
りんご	着色促進	500倍	200~ 700 ℓ/10a	収穫開始予定日の 30~25日前 但し、収穫14日前まで	1回	立木 全面散布	1回
ぶどう (巨峰)				満開後35~40日 但し、収穫30日前まで		果房散布	
かんきつ (温州みかん、 清見、 日向夏、 ワシントン ネーブル を除く)	花芽抑制 による樹 勢の維持	2,000倍	50~ 250 ℓ/10a	収穫直後~ 収穫約1ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布 (ジベレリン 10ppm液に加用)	
	落果防止			50~ 100 ℓ/10a		開花始め~ 満開10日後	
清見	花芽抑制 による樹 勢の維持	2,000倍	50~ 250 ℓ/10a	収穫直後~ 収穫約1ヶ月後	立木全面散布 又は枝別散布 (ジベレリン 10ppm液に加用)		
	落果防止			1,000~ 2,000倍	50~ 100 ℓ/10a	開花始め~ 満開10日後	散布 (ジベレリン 10ppm液に加用)

作物名	使用目的	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	プロヒドロジャスモンを 含む農薬の総使用回数	
フシトネーブル 日向夏		2,000倍		収穫直後～ 収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布 又は枝別散布 (ジベレリン 10ppm液に加用)	1回	
温州みかん (苗木)	花芽抑制 による樹 勢の維持	1,000～ 2,000倍	50～ 250 ℓ/10a	11～1月				
温州みかん	落果防止		50～ 100 ℓ/10a	開花始め～ 満開10日後		収穫直後～ 収穫約1ヶ月後	散布(ジベレリン 10ppm液に加用)	3回以内
	浮皮軽減		100～ 400 ℓ/10a	収穫予定日の3ヶ月前 但し、収穫45日前まで		果実散布 (ジベレリン1～ 5ppm液に加用)		

(平成29年4月11日現在の登録内容)


## ●効果・薬害等の注意

- 調製した希釈液は、長時間放置せずに使い切る。
- 希釈液を調製した容器及び使用器具は使用后十分に洗っておく。
- 容器等は圃場等に放置せず、適正な方法で処理をする。
- ぶどうの着色促進の目的で使用するときの注意
  - ①果粉の溶脱を生じるおそれがあるので、薬液が着きすぎないように、散布後、棚の針金または枝を軽く振って余分の薬液を落とす。
- りんごの着色促進の目的で使用するときの注意
  - ①着色不良となりやすい地域で使用する。
  - ②効果の確認されている品種は、紅玉、シナノスイート、ジョナゴールド、つがる、ふじ、である。
  - ③上記品種以外の品種に対して本剤をはじめて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用する。
- かんきつの花芽抑制による樹勢の維持目的で、ジベレリンと混用して使用する時の注意
  - ①衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しない。

- ②低温が続いた年(極端な低温の年)または花芽の減少が予測される裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がける。
- ③使用時に、必ずジベレリン10ppm液に加用する。
- ④散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布する。
- ⑤ジベレリン剤の使用上の注意事項を厳守する。
- かんきつの落果防止目的で、ジベレリンと混用して使用するときの注意
  - ①品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種に使用する場合は最寄りの指導機関の指示を仰ぐか、自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用する。
  - ②果面の粗滑や果皮の厚さ等、果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は順守する。
  - ③ジベレリン剤の使用上の注意事項を厳守する。
- 温州みかんの浮皮軽減目的で、ジベレリンと混用して使用するときの注意
  - ①着色が遅延することがあるため、貯蔵期間によってジベレリンの使用濃度を調整する。
  - ②使用時に、必ずジベレリン1～5ppm液に加用する。
  - ③果実表面に充分付着するようにていねいに散布する。
  - ④登録範囲内の高濃度の処理により薬斑が残ることがあるため、貯蔵用・樹上完熟用の果実で使用する。
  - ⑤ジベレリン剤の使用上の注意事項を厳守する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## ●安全使用上の注意

---

- 眼に入らないように注意。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける(刺激性)。
- 散布の際は農薬用マスクなどを着用する。作業後はうがいをするとともに洗眼する。

魚毒性等…この登録に係る使用方法では該当がない。

保 管…密栓し、火気をさけ、食品と区別して、直射日光のあたらない冷涼な所。

火災時の…火災時は適切な保護具を着用し、消火剤で消火に努める。  
措置